

2017 年度研究大会テーマ / 2017 Conference Theme

国際バカロレア (IB) の求める言語力とは

What Language Competency Does International Baccalaureate (IB) Aim to Develop?

MHB 研究会 2017 年度大会実行委員

◇◇◇ 大会企画趣旨 ◇◇◇

国際バカロレア (International Baccalaureate: IB) は、1968 年にスイスのジュネーブで設立された非営利の教育財団である国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization: IBO) によって設置された、総合的な教育プログラムです。IB は、世界の複雑さを理解し、対処できる生徒を育成し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせること、国際的に通用する大学入学資格 (国際バカロレア資格) を与えて、大学進学へのルートを確保する¹ことを目的としています。

日本でも、IB が生徒の主体的に学ぶ意欲と探究心を培い、高い知性と幅広い教養、自らの意見を的確に発信する力、鋭い国際感覚、深い洞察力、豊かな人間性を育成することを目指している点が非常に注目を集めています。しかし一方で、IB のプログラムでは言語が重要な役割を果たしていること、全ての教師が「言語の教師」とされ、生徒の多様な言語的背景や教室の多言語的な学習環境を踏まえて「学習言語」(academic language) を含めた広義の言語力を育成するよう求められていることはあまり知られていません。

IB では、2 言語以上で幅広いコミュニケーションの方法を学ぶことを多様な文化を理解するために欠かせない重要な基盤と位置づけており、学習における言語の役割を理解するための枠組みや、児童生徒の多言語能力を育てるための IB プログラムの枠組みについて、様々な研究の成果や理論に基づいて書いた「IB プログラムにおける『言語』と『学習』」(Language and Learning in the IB Programme) などの資料も用意されています。

そこで、2017 年度の大会では「国際バカロレア (IB) の求める言語力とは」をテーマとして取り上げ、日本語、英語などの言語科目に限定せず、TOK²など、DP の各科目、そして DP に至るまでの過程においてどのような道筋で IB のプログラム全体で言語力が

育成されていくのかについて、また、狭義の言語力に限定せず、学習言語、思考力などを含めた広義の言語力の育成について考えることにいたしました。

大会初日には、IB プログラムで指導のご経験がおありの4名の先生方にご登壇いただくパネル・ディスカッション「国際バカロレアの求める言語力とは」を企画しました。

- DP「日本語 A：言語と文学」を指導する立場から
内藤満地子氏 (アメリカンスクール・イン・ジャパン 高等部日本語教師)
- DP「日本語 B」と「ab-initio」を指導する立場から
高谷真美氏 (清泉インターナショナル学園日本語科教師)
- DP の生徒の「分析型言語スキル」の発達
-DP「歴史」と「知の理論 (TOK)」を指導する立場から-
ダッタ・シャミ氏 (東京学芸大学教職大学院
国際バカロレア教員養成ディレクター、准教授)
- PYP から DP までの一貫した国際教育の視点から
遠藤みゆき氏 (関西学院大阪インターナショナルスクール
国際バカロレア ディプロマプログラムコーディネータ)

また、二日目には「言語と国際バカロレア-全ての教師が言語の教師-」と題した基調講演を大迫弘和氏 (武蔵野大学教授・都留文科大特任教授・Chiyoda International School Tokyo 学園長予定者) にお問い合わせいたしました。

短い時間ではありますが、本大会企画が、IB を通して、母語・継承語・バイリンガル教育について来場者のみなさまと考える場となることを願っております。

参考資料

国際バカロレア機構 <http://www.ibo.org/>

国際バカロレア機構「Resources for schools in Japan」

<http://www.ibo.org/en/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/>

国際バカロレア機構 (2014) 「IB プログラムにおける『言語』と『学習』」(原文は 2012 年発行の
“Language and Learning in the IB Programme”)

文部科学省「国際バカロレア」http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm

¹ 大学入学審査への活用方法は様々で、例えば国際バカロレア資格を取得した者を当該国における高校を卒業した者と同等以上の学力があると認めるなどがあります。詳細は次稿をご参照ください。

² TOK などの各科目、及び、MYP、PYP などの各プログラムについては次稿をご参照ください。

国際バカロレア (IB) に関する基礎知識¹

Basic Information About International Baccalaureate (IB)

MHB 研究会 2017 年度大会実行委員

1. IB の使命 (IB Mission Statement)

IB が掲げる以下の使命は、次節に示す「IB の学習者像」とともに、IB に関する各種文書の冒頭に記されている。

IB の使命²

IB は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、そして思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のために、IB は、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IB のプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ることを認められる人として、積極的に、そして共感する心とともに学び続けるよう働きかけています。

2. IB の学習者像 (The IB Learner Profile)

IB では、IB 認定校が価値を置く人間性が、次に掲げる 10 の人物像として表されている。これは、IB のプログラムに関わる全ての生徒、教師、管理職、そして保護者も含めた全員が指標とすべきものとされている。

IB の学習者像³

IB の学習者として私達は次の目標に向かって努力します。

As IB learners we strive to be:

- 探究する人 / Inquires : 私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学

ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

- 知識のある人 / Knowledgeable : 私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。
- 考える人 / Thinkers : 私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理論的で倫理的な判断を下します。
- コミュニケーションができる人 / Communicators : 私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のもの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。
- 信念をもつ人 / Principled : 私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。
- 心を開く人 / Open-minded : 私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。
- 思いやりのある人 / Caring : 私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。
- 挑戦する人 / Risk-takers : 私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。
- バランスのとれた人 / Balanced : 私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。
- 振り返りができる人 / Reflective : 私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

3. IB のプログラム

IB には、年齢に応じて、初等教育対象のプライマリー・イヤーズ・プログラム (Primary

Years Programme: PYP)、中等教育前半対象のミドル・イヤーズ・プログラム (Middle Years Programme: MYP)、中等教育後半対象のディプロマ・プログラム (Diploma Programme: DP) という3つのプログラムがあり、その他にキャリア関連プログラム (Career-related Programme: CP) も提供している⁴。

- PYP : 3 歳～12 歳までを対象としており、精神と身体の両方を発達させることを重視しているプログラム。どのような言語でも提供可能。
- MYP : 11 歳～16 歳までを対象としており、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。
- DP : 16 歳～19 歳を対象としたプログラムで、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格である国際バカロレア資格 (次項参照) が取得可能。DP は、原則として英語、フランス語又はスペイン語で実施するが、日本では一部の科目を日本語でも実施可能とする「日本語 DP」の開発・導入が進められている。なお、どの言語で DP を実施するかは各学校の裁量に委ねられている (詳しくは第5項、第6項を参照)。

4. IB と大学入学審査

IB の大学入学審査への活用法は様々で、日本でも1979年に文部省 (当時) が「国際バカロレア資格 (IB フルディプロマ) (The Diploma of the International Baccalaureate (Full IB Diploma))」を有し、18歳に達した者を、大学入学に関し高等学校卒業者と同等以上の学力があると認めている (国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization 以下、IBO) 「国際バカロレアを大学入学審査に生かす」)。その他にも入学要件を IB 科目とスコアで提示したり、最終 DP スコアに基づいて DP 履修内容を大学の単位として認めたりするといった活用例がある (前掲資料)。

国際バカロレア資格には2つの側面があり、一つは大学出願のための資格で、もう一つは学力を示す成績証明という側面である。国際バカロレア資格を取得するには、DP のカリキュラムを学習した上で、国際統一試験 (外部評価および内部評価) を受験し、原則として45点満点中24点以上を取得する必要がある (点数の内訳は次項参照のこと)。

5. DP のカリキュラム

DP のカリキュラムは、次ページに示した6つのグループによって構成されている。グループ1及びグループ2はともに言語科目であるが、グループ1は生徒にとっての母語の学習で、「当該言語を学問的な文脈で使用したことのある生徒」(IBO (2014) 「IB プロ

グラムにおける『言語』と『学習』 p.26、原文は “*Language and Learning in the IB Programme*”) を対象にしている。学校が指導のために選択した言語が何であれ、IB は学校に、生徒が自らの母語で「言語 A」を履修できるように複数の「言語 A」科目を提供する環境の整備を求めている⁶。グループ 2 は言語の習得であるが、「言語 B」は当該言語をある程度学んだ生徒、「初級外国語 (ab initio)」は当該言語を学んだ経験がまったくない、もしくはほとんどない生徒が対象の科目である。

グループ名	科目別
1. 言語と文学	言語 A : 文学、言語 A : 言語と文学、文学と演劇 (SL のみ) ^(※)
2. 言語習得	言語 B、初級外国語 [ab initio] (SL のみ)、古典言語
3. 個人と社会	ビジネス経営、経済、地理、グローバル政治、歴史、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、心理学、社会・文化人類学、環境システムと社会 ^(※) 、世界の宗教 (SL のみ)
4. 理科	生物、コンピューターサイエンス、化学、デザインテクノロジー、物理、スポーツ・運動・健康科学 (SL のみ)、環境システムと社会 ^(※)
5. 数学	数学スタディーズ (SL)、数学 (SL)、数学 (HL)、数学 (Further Higher Level: FHL)
6. 芸術	ダンス、音楽、フィルム、文学と演劇 ^(※) 、美術

※はグループ横断科目

生徒は各グループから 1 科目ずつを選択し、計 6 科目を 2 年間で履修する。(ただし、グループ 6 は他のグループからの科目に代えることも可能。) 6 科目のうち、3~4 科目を上級レベル (Higher Level: HL、各 240 時間)、その他を標準レベル (Standard Level: SL、各 150 時間) で学習する。

また、上記科目と並行して履修する「コア (Core)」と呼ばれる必修要件があり、それは「課題論文 (Extended Essay: EE)」「知の理論 (Theory of Knowledge: TOK)」「創造性・活動・奉仕 (Creativity/Action/Service: CAS)」の 3 つからなっている。

要件名	概要
課題論文(EE)	履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、成果を 4,000 語(日本語の場合は 8,000 字)の論文にまとめる。
知の理論(TOK)	「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なり

	ものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低 100 時間の学習。
創造性・活動・奉仕(CAS)	創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

DP のカリキュラムを学習した上で受験する国際統一試験（外部評価および内部評価）で、45 点満点中 24 点以上を取得すれば国際バカロレア資格が授与されるが、45 点の内訳は、6 科目について各科目 7 点（計 42 点）、そして必修要件のうち EE と TOK に対する合計点が 3 点である⁷。なお、以下の①②のいずれかの条件を満たした場合、バイリンガルディプロマ (Bilingual Diploma) が授与される。① Group 1 を 2 つの言語で履修し、最終スコアがそれぞれ 3 点以上である。② Group 3 か 4 の教科を Group 1 の言語以外の言語で履修し、最終スコアが 3 点以上である。

6. IB と言語

IB では、2 言語以上で幅広いコミュニケーションの方法を学ぶことを多様な文化を理解するために欠かせない重要な基盤と位置づけており、PYP、MYP、DP における「言語」と「学習」に対する IB の基本方針は、前掲の「IB プログラムにおける『言語』と『学習』」に説明されている。これは、すべての IB 教師、コーディネーター、ワークショップリーダー、学校管理職を対象として書かれたもので、カリキュラムデザインや教員研修のための参考資料として活用することが意識されており、学習における言語の役割を理解するための枠組み、児童生徒の多言語能力を育てるための IB プログラムの枠組みが、様々な研究の成果や理論に基づいて書かれている。その内容は以下の通りである。

セクション 1：言語の役割
セクション 2：言語と学習のパラダイムとしての「多言語主義」
セクション 3：IB の「言語」と「学習」
セクション 4：多言語能力を理解するための枠組み
セクション 5：言語と学習の一般的な指導方法
セクション 6：学校の言語方針策定のためのガイドライン
付録：参考文献やリソース

この資料には例えば、IB が「多言語主義 (multilingualism)」を理論的枠組としていることが示され、児童生徒を複数の言語に熟達し、読み書きにも優れた知識豊富な多言語

話者に育てる取り組みについて、IBには次のような基準があることが記されている。

- 学校は、生徒の母語、学校所在地の言語、その他の言語を含めた言語学習を重視すること
- 「協働設計」と「振り返り」は、児童生徒の言語能力の発達にすべての教師が責任を負っていることを認識して行われること
- 「指導」と「学習」は、母語以外の言語で学習している児童生徒のニーズを含め、言語に関する児童生徒の多様なニーズに対応するものであること
- 「指導」と「学習」は、児童生徒の言語能力の発達にすべての教師が責任をもって取り組んでいるものであること
- 学校は、プログラムを支援するための方針と手順を策定し、実施すること

また、この資料では、言語と学習の領域の連続したつながりが、言語の「指導」と「学習」を計画する際の参考としての分類(以下)やモデル⁸とともに書かれている(pp.28-37)。

「言語の学習」に重点	「言語を通じた学習」に重点	「言語についての学習」に重点
個別のスキル	認知学習言語運用能力 (CALP)	文学分析
基本的対人伝達能力(BICS)		批判的リテラシー
基本的な読み書きの能力 (リテラシー) と言語表現		

さらに、各科目には特定の語彙があり、科目の内容理解、そして考えの伝達のために、ツールとしての言語が必要であるという認識から、IBは言語の正確な使用を生徒に求めている。全科目の評価において記述形式による自己表現が、グループ1、2、6ではそれぞれ口述評価課題が課されているのもそのためである。また、学習言語能力は、学校における実りある学習と切り離せない関係にあり、学習言語能力の向上に教師全員が何らかの役割を担うという考えから、すべての教師が「言語の教師」としてとされており、効果的な指導を実践するためには学校全体の協働が必要であると、IBの原則と実践に則った言語方針を明文化することを求めているのである(前掲資料p.42)。

しかし、IBの学習者の多くは、多様で複雑な言語的背景を持っており、結果として多くの学習者がカリキュラムの大部分を母語以外の言語で履修する形になる。そのため、IBは学校に、こうした状況が学習に及ぼす具体的な影響を十分理解し、母語以外の言語で履修している学習者を含めたすべての「学習者の多様性の価値を失わず、すべての学習者がカリキュラムで計画された学習に等しく参加でき、学校が設置している環境と実践の基準が全員にとって実りある指導・学習環境を育むものである」ようにすることを

求めている (IBO (2014) 「母語以外の言語による IB プログラム学習」 p.2、英語原文 “*Learning in a Language Other Than Mother Tongue*”)。

7. カリキュラムの改訂

IB では、7 年のサイクルでカリキュラムの改訂が実施されている。例えば、「言語 A」は、2019 年 9 月に新カリキュラムによる指導が開始され、2021 年 5 月に初回の試験が行われる。新カリキュラム開始に先立って、ガイドや指導の手引き、指定作家リストなどの改訂版が公開される予定である。「言語 B」「*ab-initio*」も改訂が予定され、現行ガイドに基づいた試験は 2019 年 11 月で終了する。2018 年 9 月からは新カリキュラムによる指導が開始され、2020 年 5 月の試験より新試験が行われることになっている。

参考資料

IBO 「Resources for schools in Japan」にリンクが張られた、IBO 発行の以下の資料

<http://www.ibo.org/en/about-the-ib/the-ib-by-region/ib-asia-pacific/information-for-schools-in-japan/>

- IBO (2014) 「DP : 原則から実践へ」
- IBO (2014) 「IB プログラムにおける『言語』と『学習』」
- IBO (2014) 「国際バカロレア (IB) の教育とは?」
- IBO (2014) 「母語以外の言語による IB プログラム学習」
- IBO (2015) 「ディプロマプログラムにおける『指導』と『学習』」
- IBO (2017) 「DP 手順ハンドブック 2017 年 5 月、11 月試験用」
- IBO 「国際バカロレアを大学入学審査に生かす」

文部科学省 「国際バカロレア」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/index.htm

- ¹ 本稿の説明は、IBO が発行した日本語版資料 (入手先ウェブサイトや資料の名称は参考資料に掲載) を参照してまとめたものである。
- ² IBO (2014) 「国際バカロレア (IB) の教育とは?」より
- ³ 同上。日本語版からの引用であるが、項目名のみ英語原文より該当箇所を筆者が引用し挿入した。
- ⁴ CP は 16 歳から 19 歳を対象としたプログラム。本大会では CP については触れる機会があまりないため本稿でも割愛した。
- ⁵ IB では「母語」という用語は、「最初に学んだ言語」、「ネイティブスピーカーとして見なされる言語」、「最もよく知っている言語」、「最もよく使う言語」等の全ての意味を含んで使用されている (IBO (2014) 「IB プログラムにおける『言語』と『学習』」 p.22、英語原文 “*Language and Learning in IB Programmes*” 他)。
- ⁶ 学校が提供している「言語 A」科目に母語の言語科目がない場合、学校は生徒のために「学校のサポートの下で行われる自己学習」コースを提供する他、開講できない言語を「特別リクエスト」のプロセスを通じて IBO に要請することができる (IBO (2017) 「DP 手順ハンドブック 2017 年 5 月、11 月試験用」 英文原文 “*Handbook of Procedures for the Diploma Programme 2017*”)。
- ⁷ CAS は点数評価されない。
- ⁸ この資料では、各側面や各領域の間にあるダイナミックな相互作用を否定してはおらず、あくまでも指導と学習を計画するための参考として分類やモデルを示していることが強調されている。